

台湾海峡と朝鮮半島の相互作用

研究報告会議「北朝鮮のグローバル展開ーロシア・アジア・アフリカー」

国際研究会「安全保障協力体制の構想」

東大先端研創発戦略研究オープンラボ(ROLES)

2024.3.8

松田康博

東京大学東洋文化研究所

はじめに

- 「台湾有事」と「朝鮮半島有事」の連想と連動
- 日本における「台湾有事」懸念
- 「台湾有事」論に関する一部進歩派論者の見解
- 米韓軍事専門家による米韓同盟の対応に関する想定
- 韓台関係接近の兆候
- 米中戦略競争下の中朝接近
- コロナ禍と中朝関係停滞
- ロシア・ウクライナ戦争と中朝関係

「台湾有事」と「朝鮮半島有事」の 連想と連動



- 在韓米軍の「**戦略的柔軟性**」: 台湾有事の際に必ず米国から要求される(後方支援) + 北朝鮮が便乗する可能性がある(自国防衛) → 日本・フィリピンとの類似性
- 米韓首脳会談(2021.5): 「**台湾海峡の平和と安定の重要性**」に言及 → 台湾有事への対応策の議論開始
- **在韓米軍機(C-17)が米上院議員3名を乗せて台湾訪問(2021.6)**
- 韓国海軍未来戦略研究団のジョン・ヌン海軍中佐(2021年11月): ①海上交通路の円滑な確保、②韓半島周辺海域での類似状況に対する備え、③米国の同盟国としての責任に関する要求とそれに対する備え、④台湾有事における(現地)居留民の安全確保
- 尹錫悦大統領CNN 発言“ We must deal with the North Korean threat first ” (2022.9)
- 国家安保戦略研究院の(INSS)パク・ビョンガン責任研究委員(2022年11月): ①台湾危機発生時には韓半島への波及効果に関する多角的分析が必要であること、②台湾問題に関する外交的基本原則の一貫性を維持すること、③台湾問題関連の軍事衝突など最悪の状況に備える必要があること、④韓国の外交力増大の機会として台湾問題を活用すること
- 「台湾有事」に関するフィリピン、オーストラリア、イギリスなどの動向も変化

出所)伊藤弘太郎「台湾有事に関する韓国での議論」、NPI Commentary、2023年3月23日、<https://www.npi.or.jp/research/data/npi_commentary_ito_20230323.pdf>。

出所)「美参議員訪団抵台 宣布将捐贈台湾75万剂疫苗」、中央通訊社、2021年6月6日、<<https://www.cna.com.tw/news/firstnews/202106065002.aspx>>。

日本における「台湾有事」懸念

- 日本では1995-96年以來、波状的に懸念→段階的な法整備と能力構築
- 国際社会における「台湾有事」への懸念は2021年から21年にかけて急速に強まった。
- 2021年3月の日米安全保障協議委員会（日米「2+2」）で「台湾海峡の平和と安定の重要性」という表現が使われ、翌月の日米首脳会談でも言及された。
- 安倍晋三元首相（2022年3月）：「台湾有事は日本有事であり、日米同盟有事でもある」→日本における台湾海峡情勢に対する危機感を表している
と解釈できる。
- ロシア・ウクライナ戦争が勃発（2022年2月）：日本の台湾問題に対する危機感
- 『日本経済新聞』の世論調査：台湾の安定に関与することに賛成するという回答が74%
- 『毎日新聞』の世論調査：中国の台湾侵攻を心配する人は89%
- 『日本経済新聞』の世論調査：中国による台湾有事に日本がどう備えるべきかという質問に対して、「今の法律の範囲で可能な備えをすべきだ」（50%）と「法改正も含めて対応力を高めるべきだ」（41%）の合計は9割を超え、「備える必要はない」は4%

「台湾有事」論に関する一部進歩派論者の見解

- ハンギョレ平和研究所ジョン・ウクシク所長：米国の軍や議会から流れる情報からみて、台湾海峡戦争の際、米国が「在韓米軍の投入オプションを既成事実化」しており、「在韓米軍の空白を埋める国連軍の強化」を推進していること、そして「在韓米軍の戦略的柔軟性の強化」の趨勢があることを指摘
- 米韓同盟条約第三条によると、「いずれかの締約国に対する太平洋地域における武力攻撃が自国の平和及び安全を危うくするものであることを認め、自国の憲法上の手続に従つて共通の危険に対処するように行動することを宣言する」→アメリカは台湾海峡をめぐる中国から攻撃を受けた場合、それが「太平洋地域における武力攻撃」に相当し、韓国による集団的自衛権行使の要件となるかもしれない懸念
- 星州のTHAADの使用や濟州島の海軍基地からの出撃などは、韓国側の「憲法上の手続き」が不要→米軍の行動によって韓国が巻き込まれる懸念
- 中朝同盟もまた強化されており、それはアメリカの同盟強化戦略の帰結
- 韓国における台湾海峡をめぐるこうした「巻き込まれ論」は、1995～96年の台湾海峡危機以降日本で展開した議論と相似形

出所)길운형 (ギル・ユンヒョン)、장영희 (チャン・ヨンヒ)、정육식 (ジョン・ウクシク) 『미중 경쟁과 대만해협 위기: 남북한은 동맹의 체인에 연루될 것인가 (米中競争と台湾海峡危機: 南北朝鮮は同盟の鎖につながれているのか?)』 갈마바람 (ガルマバラム出版社)、2022年。



「台湾有事」論に関する一部進歩派論者の見解

- チャン・ヨンヒ忠南大学平和安保研究所研究員：台湾海峡で戦争が起きた際に**現地の韓国企業の安全、韓国人の安全をどう確保**するか？
- 大韓貿易投資振興公社によると台湾に進出する韓国企業は約100社、韓国の在外同胞庁によると台湾に住む韓国人は約4,800人
- **中国に21万5,000人の韓国人が居住**：1992年以降急速に拡大した経済関係が、韓国軍や韓国政府の行動を大きく制約することにつながる可能性がある（**=人質化の懸念**）
- 韓国の東アジア研究院が2022年に実施した世論調査：台湾海峡で戦争が起こった場合、対米協力により台湾問題に対応しなければならないと回答が64.5%、どのような対応をすべきか、という問いに対して、**後方支援に限定が42.0%、軍事作戦に参加すべきが22.5%**
- 「台湾有事論」の高まりと相まって、**台湾や中国に滞在する日本企業や邦人の安全への懸念が急速に高まった日本との類似性**

米韓軍事専門家による米韓同盟の対応に関する想定 (全シナリオ共通)

米国の要求と懸念	韓国の対応と懸念
<ul style="list-style-type: none">・中国を外交的に強く非難し、台湾支援を声明・韓国の反応を日豪などと比較・対中経済制裁：個人や団体に絞った制裁、武器や軍民両用技術移転禁止、旅行禁止、資産差し押さえ等・米国の死傷者が増えると、北朝鮮による韓国攻撃のリスクへの配慮が減少	<ul style="list-style-type: none">・韓国は「台湾海峡の平和と安定の重要性」で米国と認識を共有してきた・いったん有事になれば韓国の政策オプションはとても限られているため、複数の状況に対し様々なオプションを準備しなければならない・ダイナミックな状況の中で即座に決断を下すことに備える・韓国国内における「巻き込まれの恐怖」に火をつけ、国にとどまるべきとする勢と力の対立を生む

米韓軍事専門家による米韓同盟の対応に関する想定 (限定攻撃)

米国の要求と懸念	韓国の対応と懸念
<ul style="list-style-type: none">・軍事情報の共有・在韓米軍部隊の移動の受け入れ(韓国は韓国領土からの出撃を懸念。力の空白による北朝鮮の挑発行動を懸念)・韓国に兵站支援を期待(公表せずに実施)	<ul style="list-style-type: none">・韓国は中台の明確な衝突に際し、米国に協力しなければならない・朝鮮半島周辺、特に韓国の西海岸前線において中国の攻撃的行動を抑止するため、監視活動を行う・中国軍の艦艇・航空機が韓国領域を通過することを拒否する(難しい)・宇宙・サイバーの領域で米国と協力



米韓軍事専門家による米韓同盟の対応に関する想定 (封鎖)

米国の要求と懸念

- ・韓国に中国軍の艦艇・航空機が韓国領域を通過することを禁止するよう要請
- ・韓国に戦闘地域に軍事物資を運ぶ民間船舶や航空機、および監視、護衛任務、搜索救難などの**非攻撃作戦**に従事する米軍船舶や航空機に対する後方支援を求める



韓国の対応と懸念

- ・韓国は、**非軍事任務に従事する米国の民間航空機や船舶の整備のために、整備施設や基地を指定**(これでも中国から非難を受けるかもしれず、要検討)
- ・韓国は封鎖が韓国の海上貿易に影響するため、米日との協力が必要
- ・韓国は**台湾海峡の戦場**に向かう在韓米軍に対する中国海軍の攻撃から防御
- ・韓国は中国が**黄海の封鎖**をすることに準備すべき

米韓軍事専門家による米韓同盟の対応に関する想定 (全面侵攻)

米国の要求と懸念	韓国の対応と懸念
<ul style="list-style-type: none">・米韓同盟を牽制し、在韓米軍を朝鮮半島に釘付けにするため、中国は北朝鮮に韓国への攻撃を依頼する可能性があり、韓国は北朝鮮による低強度から中強度の軍事挑発を自力で対処を期待	<ul style="list-style-type: none">・北朝鮮を韓国に攻撃させるための中朝戦略的協力に備える・北朝鮮による低レベルの軍事的挑発に自力対処・韓国は米韓同盟が2つの戦場に同時に対処することになることを見込む・金正恩の決断次第では核戦争の可能性

- ・ サンダース：この戦争が終わった後、「韓国の行動と支援は批判的に検討され、この分析は政治化されナショナリスティックになった米国で行われることになる。米韓関係の将来と米韓同盟の長期的な運命は、米国が最も支援を必要としていたときに韓国が十分な支援をしたかどうかについての米国の認識にかかっていると思われる」と指摘→日豪と比べられる可能性

韓台関係接近の兆候

- 「台湾有事論」により日台関係緊密化する趨勢があり、欧米と台湾の間でも交流増大
- 韓台関係発展を求める動き：バイデン・文在寅首脳会談（2021年5月）で「台湾海峡の平和と安定の重要性」に言及→尹錫悦政権は継承
- 尹錫悦大統領：2022年12月、韓国軍の合同参謀本部議長経験者を駐台北代表に任命することを考慮しているという報道
- 韓国国会の鄭宇澤副議長：2023年1月台湾を訪問し、游錫堃立法院院長と蔡英文総統と会見→中国は猛反発
- 朝鮮半島問題と台湾海峡問題：台湾と韓国の関係においても変化の兆候
- 台湾がアメリカや韓国との関係発展を進めるのと反比例するように、台湾は北朝鮮との関係を悪化→昔日の冷戦のロジックが回復し、東アジアは米日韓台のブロックと中露朝のブロックに先祖返りの傾向

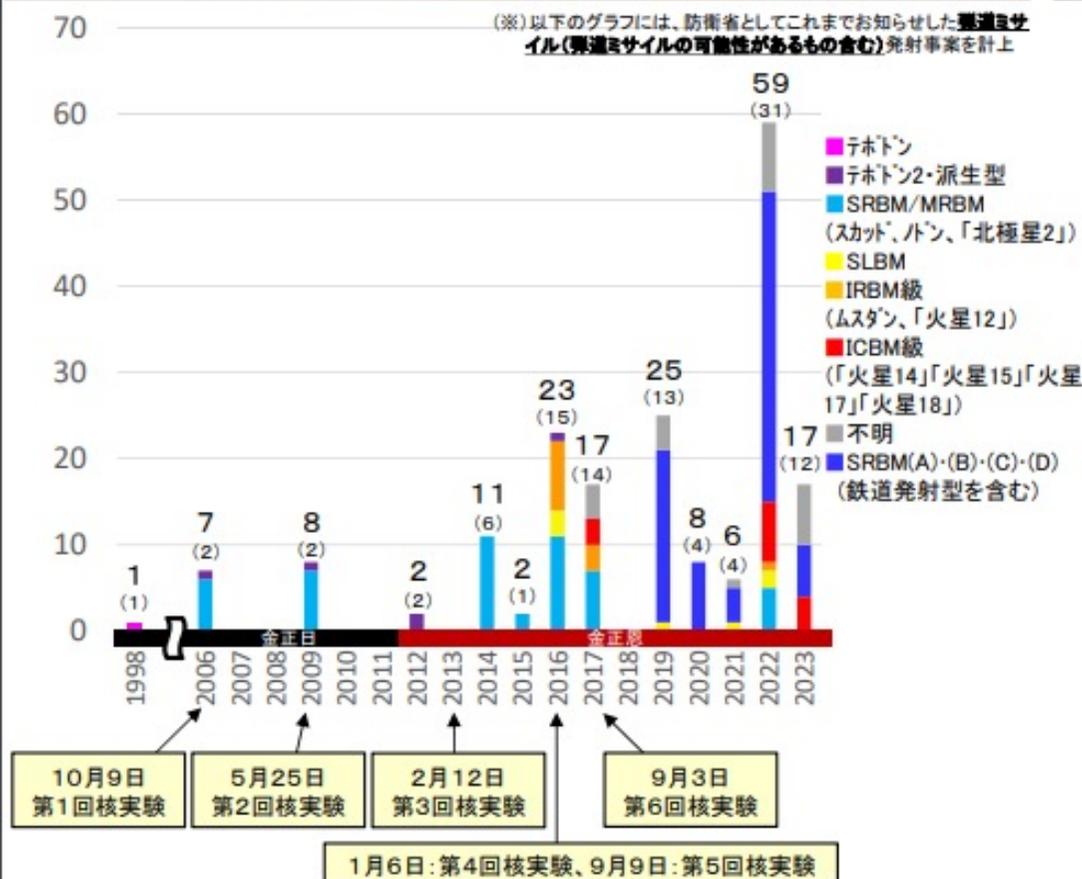
米中戦略競争下の中朝接近

- 北朝鮮核実験(2013.2、2017.9)、張成沢処刑(2013.12)、習近平の訪韓(2014.7): **中朝関係悪化**の象徴→中国が嫌がるタイミングで弾道ミサイル試射
- 中国、韓国へのTHAAD配備に対して「制裁」(2016)
- **金正恩の訪中**(2018.3、5、6): 米朝接近が確定してから中朝接近
- 米中制裁関税競争開始(2018.3): 中国の憲法改正(国家主席の任期取り消し)と相まって米中対立構造化へ
- トランプ・金正恩シンガポール会談(2018.6)
- トランプ・金正恩ハノイ会談(2019.2)
- **金正恩の訪中**(2019.1)
- **習近平の訪朝**(2019.6): 訪韓の噂→Covid-19でうやむやに
- トランプ・金正恩板門店会談(2019.6): 決裂後弾道ミサイル試射の増加
- **米中対立は中朝接近をもたらす要因**

北朝鮮による核実験・弾道ミサイル発射事案

- 2016年、2017年だけで**3回**の核実験を行ったほか、多数の弾道ミサイル発射を強行。2017年後半は特に、**新型を含む長射程**の弾道ミサイルを繰り返し発射。
- 2019年5月以降、**低空を変則軌道で飛翔可能な新型短距離弾道ミサイル(SRBM)等**を繰り返し発射。
- 2021年9月以降、「**極超音速ミサイル**」と称するものや**変則軌道で飛翔可能なSRBM**などを立て続けに発射し、その態様も鉄道発射型や潜水艦発射型など多様化。加えて、特に2022年には、**ICBM級**を含め、**少なくとも59発(31回)**に及ぶ**かつてない高い頻度**でミサイル発射を執拗に繰り返し、国際社会に対する挑発を一方向的にエスカレート。

北朝鮮による核実験・弾道ミサイル等発射 (カッコ内の数値は発射回数)



北朝鮮の弾道ミサイル等発射数・核実験回数

指導者	年	弾道ミサイル等発射数	核実験
 金日成主席	1993年	不明	—
 金正日国防委員長	1994年 ～ 2011年	16発 (1998年、 2006年、 2009年に発 射)	2回
 金正恩國務委員長	2012年 ～ 現在	170発	4回

(画像: 韓国統一部北朝鮮情報ポータル)

「新時代」中朝關係年表1/3

2013年5月，朝鮮國務委員會委員長金正恩特使、朝鮮勞動黨中央政治局常委崔龍海訪華，[習近平](#)總書記會見。

2013年7月，[李源潮](#)副主席率團訪問朝鮮並出席朝鮮戰爭停戰60周年紀念活動，[金正恩](#)委員長會見。

2014年2月，[習近平](#)主席在出席索契冬奧會開幕式期間會見朝鮮最高人民會議常任委員會委員長[金永南](#)。

2015年9月，朝鮮勞動黨中央政治局常委崔龍海來華出席中國人民抗日戰爭暨世界反法西斯戰爭勝利70周年紀念活動。

2015年10月，中央政治局常委、中央書記處書記[劉雲山](#)率中國共產黨代表團出席朝鮮勞動黨成立70周年慶祝活動並對朝鮮進行正式友好訪問，[金正恩](#)委員長會見。

2016年6月，朝鮮勞動黨中央政治局委員、中央副委員長、國際部部長[李洙墉](#)率團訪華。[習近平](#)總書記會見。

2016年7月，[王毅](#)外長同朝鮮外相[李勇浩](#)在老撾東盟地區論壇外長會期間舉行會見。

2017年5月，朝鮮對外經濟相[金英才](#)來華出席“一帶一路”國際合作高峰論壇。

2017年8月，[王毅](#)外長同[李勇浩](#)外相在菲律賓東盟地區論壇外長會期間舉行會晤。

2017年11月，[習近平](#)總書記特使、中聯部部長[宋濤](#)赴朝通報中共十九大情況並訪朝。

2018年3月，[金正恩](#)委員長非正式訪華，[習近平](#)總書記同其舉行會談。

2018年4月，[宋濤](#)部長率中國藝術團參加朝鮮“四月之春”國際友誼藝術節。

2018年5月，[王毅](#)國務委員兼外長訪朝，[金正恩](#)委員長會見。

2018年5月，[習近平](#)總書記同[金正恩](#)委員長在大連舉行會晤。

2018年6月，[金正恩](#)委員長對中國進行訪問，[習近平](#)總書記同其舉行會談。

「新時代」中朝關係年表2/3

2018年9月，中央政治局常委、全国人大常委会委员长栗战书作为习近平总书记特别代表率中国党政代表团访朝，出席朝鲜建国70周年庆祝活动，金正恩委员长会见。

2018年10月，国家体育总局局长苟仲文率中国体育代表团访问朝鲜。

2018年12月，李勇浩外相访华，习近平总书记会见，王毅国务委员兼外交部长同其会谈。

2019年1月，金正恩委员长对中国进行访问，习近平总书记同其举行会谈。

2019年4月，朝鲜对外经济相金英才来华出席第二届“一带一路”国际合作高峰论坛。

2019年6月，朝鲜中央检察所长金明吉访华。

2019年6月，习近平总书记应邀对朝鲜进行国事访问。

2019年6月，朝鲜祖国统一民主主义战线议长金完洙访华，中共中央政治局常委、全国政协主席汪洋会见，全国政协副主席杨传堂会谈。

2019年7月，朝鲜中央裁判所长姜润石访华，中共中央政治局委员、中央政法委书记郭声琨会见。

2019年8月，朝鲜国务委员会委员、人民军总政治局局长金秀吉访华，中央军委副主席张又侠会见。

2019年8月，朝鲜对外经济相金英才来华出席第十二届中国-东北亚博览会。

2019年9月，王毅国务委员兼外长访朝，李洙墉副委员长会见，李勇浩外相会谈。

2019年10月，中央军委委员、军委政治工作部主任苗华访朝。

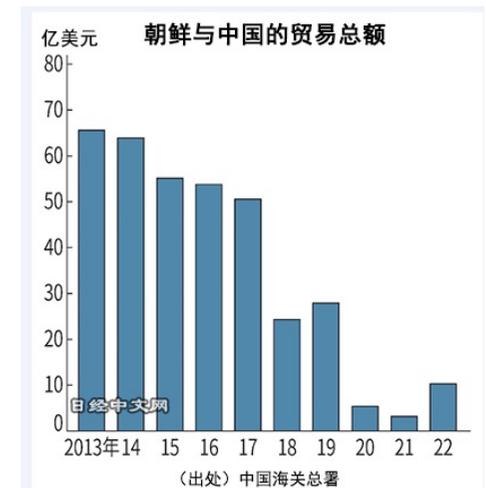
2019年10月，朝鲜人民武力省副相金亨龙率团来华参加第七届世界军人运动会开幕式并出席第九届北京香山论坛。

2019年11月，辽宁省委书记陈求发访朝。

2019年11月，中国国家大剧院交响乐团对朝鲜进行友好访问演出。

2019年12月，吉林省委书记巴音朝鲁访朝。

コロナ禍と中朝関係停滞



- 北朝鮮、対中国国境閉鎖(2020.1): 3年余り「祝電外交」のみ
- 貨物運輸全面禁止(2020.10) → 鉄道運輸一部復活(2022.9)、国境フェンス建設加速、ゼロコロナ政策
- 2020年の貿易額は輸出が前年度比80.9%減、輸入77.7%減
- 北朝鮮、感染大爆発(2022年春夏)、秋には一部中国製ワクチン接種
- 2022年の中朝貿易コロナ禍前より6割減(10.28億ドル、中国の輸出8.94億ドル、輸入1.34億ドル)
- 中国、感染大爆発(2022.12-2023.2)
- 北朝鮮、中国とのトラック輸送再開(2023.2)
- 李鴻忠全人代常務委副委員長停戦70周年行事参加のため訪朝(2023.7)
- 北朝鮮テコンドー選手、パンデミック後初の出国 → 北朝鮮からの中国訪問は不振が継続
- 接近した中朝関係はコロナ禍により停滞し、北朝鮮経済も悪化

「新時代」中朝關係年表3/3

2020年2月，金正恩委員長就新冠肺炎疫情向習近平總書記致慰問信。5月，習近平總書記同金正恩委員長互致口信。9月，習近平總書記就朝鮮國慶72周年向金正恩委員長致賀電。10月，金正恩委員長就新中國成立71周年向習近平總書記致賀電，習近平總書記就朝鮮勞動黨成立75周年向金正恩委員長致賀電。

2021年1月，習近平總書記致電祝賀金正恩被推舉為朝鮮勞動黨總書記，金正恩總書記復電感謝。王毅國務委員兼外長同朝鮮外相李善權互致新年賀電。

2021年7月，金正恩委員長就中國共產黨成立100周年向習近平總書記致賀電。習近平總書記就《中朝友好合作互助條約》簽訂60周年同金正恩委員長互致賀電。9月，習近平總書記就朝鮮國慶73周年向金正恩委員長致賀電。10月，金正恩委員長就中國國慶72周年向習近平總書記致賀電。12月，中共中央政治局委員、全國人大常委會副委員長王晨前往朝鮮駐華使館，出席已故朝鮮最高領導人金正日逝世十周年紀念活動，以中共中央名義送花籃。

2022年2月，金正恩委員長就北京冬奧會開幕向習近平總書記致賀電，就北京冬奧會閉幕向習近平總書記致口信。9月，習近平總書記就朝鮮國慶74周年向金正恩委員長致賀電。10月，金正恩委員長就中國國慶73周年向習近平總書記致賀電。同月，朝鮮勞動黨中央委員會向中國共產黨第二十次全國代表大會致賀電，金正恩總書記就習近平同志再次當選中共中央總書記致賀電。11月，金正恩總書記就江澤民同志逝世向習近平總書記致唁電。

2023年3月，金正恩委員長致電祝賀習近平總書記當選中華人民共和國主席。7月，全國人大常委會副委員長彭清華出席朝鮮駐華使館舉行的《中朝友好合作互助條約》簽訂62周年紀念招待會。

2023年7月，中共中央政治局委員、全國人大常委會副委員長李鴻忠率中國黨政代表團訪朝並出席朝鮮戰爭停戰70周年紀念活動。2023年9月，中共中央政治局委員、國務院副總理劉國中率中國黨政代表團訪朝並出席朝鮮國慶75周年慶祝活動。2023年12月，中共中央政治局委員、外交部長王毅會見來華舉行中朝外交磋商的朝鮮外務省副相朴明浩。

出所) 中國外交部、<https://www.mfa.gov.cn/web/gjhdq_676201/gj_676203/yz_676205/1206_676404/sbgx_676408/>。

ロシア・ウクライナ戦争と中朝関係

- 米国による**中国包囲網**: AUKUS成立(2021.9)、Quad首脳会談(2021.9)
- 米国がロシアのウクライナ侵攻情報を中国に提供(2021.10)→中国はロシアに情報提供、NATO原因説を流布
- プーチン・習近平会談(2022.2):「不明確な通知」
- 習近平はロシアのウクライナ侵攻直後にプーチンに対して理解表明(2022.2):ロシアへの限定的支援と表面的な中立の並立
- ロシア、北朝鮮から武器弾薬調達情報(2022.9-):持久戦化により**ロシアの対中国・北朝鮮依存深化**
- 日本による半導体輸出規制と林芳正外相訪中(2023.4):**サプライチェーン再編加速**
- **日米韓首脳会談**(2023.8):安全保障を含めた協力強化
- 金正恩政権の対露接近:北朝鮮による対外関係多元化努力
- 金正恩「韓国は第一の敵、不変の主敵」発言:
- 新冷戦状況は、露朝関係の接近要因であり、中朝接近の要因→米中は二正面(日本は三正面?)対応を迫られる

おわりに

- 韓国へのスピルオーバー: 中国と韓国の能力が向上 + 在韓米軍の「柔軟性」による「巻き込まれ」の懸念増大 → 過去20数年の日本に類似
- 冷戦的状況の加速: ①日米韓豪(台) vs. 中露朝のグルーピング、②サプライチェーン再編の加速
- コロナ禍における経済的孤立と弾道ミサイル発射回数増加
- ロシア・ウクライナ戦争をめぐり、冷戦を回避／遅らせたい中国と冷戦の復活を渴望する北朝鮮の違い → ロシアの北朝鮮接近に中国は不満
- 中朝関係の帰趨および北朝鮮の計算によっては台湾海峡危機と朝鮮半島危機が連動する可能性: 「台湾有事」は「朝鮮半島有事」の引き金? → 北朝鮮は自国の利益が大きければ中国に何らかの協力? → 北朝鮮の自立性は高い
- 七者(中、台、朝、韓、米、露、日)の内では決定的に重要なのは①中 vs. 米台日(韓)、②中朝(露) vs. 米韓(日)の組み合わせであり、中心的アクターは米・中である